

# 事務事業一覧表

施策コード	事業名称	部局名	所属名	シート区分	ページ
32112	坂の上の雲ミュージアム施設管理運営事業	総合政策部(坂の上の雲まちづくり担当)	坂の上の雲ミュージアム事務所	シートB	2
32112	坂の上の雲ミュージアム企画展示事業	総合政策部(坂の上の雲まちづくり担当)	坂の上の雲ミュージアム事務所	シートB	4

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名 総合政策部(坂の上の雲まちなびの担当)	課等名 坂の上の雲ミュージアム事務所	担当グループ名 坂の上の雲ミュージアム担当	連絡先 915-2601
	部等長名 片本 悦央	課等長名 石丸 耕一	リーダー名 主幹	担当者名 池内 伸二
H30年度	部局等名 総合政策部(坂の上の雲まちなびの担当)	課等名 坂の上の雲ミュージアム事務所	担当グループ名 坂の上の雲ミュージアム担当	連絡先 915-2601
	部等長名 片本 悦央	課等長名 石丸 耕一	リーダー名 主幹	担当者名 池内 伸二

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	32112	坂の上の雲ミュージアム施設管理運営事業	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	3:指定管理		
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】		笑顔プログラム	221	個別プログラム	笑顔を育むプログラム				
政策	都市全体の価値や魅力を向上する				重点プロジェクト	わがまち松山への愛着と誇りの醸成による「住み続けたいまちづくり」プロジェクト				
施策	選ばれる都市づくり				主な取り組み	地域資源の利活用と知る機会の充実				
主な取り組み	まちの特性を生かした魅力づくり		市長公約	531	自分たちのまちに愛着や誇りをもち、住み続けたい山をつくり出す					
取り組みの柱	坂の上の雲ミュージアムの活用				風雨・急雨諸島をはじめ、各地域の歴史や文化、自然などを活かし、松山のさまざまな魅力を磨き、さらに、地域の魅力を高める機会を充実させることで、子どもや若者のシビックプライドを醸成します。					
総合戦略	基本目標		取組み				(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無			
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	1:有り	重点的取組事業該当有無(H30)	1:有り	(重点該当の場合)	開始年度	平成	24	終了(予定)年度	平成	31
根拠法令,条例,個別計画等	なし									
事業の目的(どのような状態にするか)	指定管理者制度による公平かつ公正で、効率的なミュージアムの維持と運営管理に努めるとともに、各種活性化事業を実施する。まちづくり支援機能、情報発信機能を活用することにより、多くの人に親しまれるミュージアムを目指す。									
背景(どのような経緯で開始したか)	松山市がすすめる『坂の上の雲』のまちづくりの中核施設となっていることから、平成19年4月のミュージアム開館時から実施している。									
対象(誰を,何を)	坂の上の雲ミュージアム									
事業の目的(どのような活動・手段か)	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理者制度によるミュージアムの施設維持管理を行う。(指定管理者である四電ビジネス㈱愛媛支店に指定管理料を支出)</li> <li>ミュージアムが持つ「展示機能」「情報発信機能」「まちづくり支援機能」を果たすため、資料調査、展示物の維持管理、充実、周知啓発、各種活性化事業のほか、以下のような魅力発信事業を実施する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>(1)市民への発信                             <ul style="list-style-type: none"> <li>各種講座の実施(ミュージアム講座、大学連携講座)</li> <li>子供向け普及啓発事業の実施(講座、ワークショップ等)</li> <li>市民主体のまちづくり活動の紹介等</li> </ul> </li> <li>(2)観光客への発信                             <ul style="list-style-type: none"> <li>関係部門や他博物館等との連携によるPR活動や旅行商品の販売</li> <li>館内で体験できる特別メニューの開発・実施</li> </ul> </li> <li>(3)外国人への発信                             <ul style="list-style-type: none"> <li>施設案内パンフレットの多言語化</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>									
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	1:有り	有りの場合、その協働の内容	ミュージアム周辺のまち歩き案内をする観光ボランティアガイドの待機所を館内に設け、来館者サービスの向上や情報発信に努めた。						
事業の周知状況	HP掲載の有無	1:有り	(有りの場合) URL	<a href="http://www.sakanouenokumomuseum.jp/">http://www.sakanouenokumomuseum.jp/</a>	パンフレット等の有無	1:有り	(有りの場合) 設置場所	ミュージアム内、空港、港湾、市内外の文化・観光施設等		
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り	「有り」の場合、基準や金額等	観覧料 一般400円(320円)、高校生200円(100円)、高齢者200円(160円) 中学生以下無料 ( )内は20名以上の団体割引料金 音声ガイド 100円、イベント等は、その都度金額を設定。		「無し」の場合、その理由				
始期・終期(年度)	平成	18	～	終期設定できない場合の理由	ミュージアムを継続的に運営していくため。					

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	商工費		観光費		観光資源開発費		H30予算措置時期		当初
				H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H30年度	H31年度	H30年度	H31年度	
現計予算額(A)(単位:千円)				106,098	106,197			104,043				111,340
決算額(B)(単位:千円)				106,241	102,761			101,320				
内訳(単位:千円) ※H28~30→決算内訳, H31→予算内訳	国支出金			0	0			0				0
	県支出金			0	0			0				0
	市債			0	0			0				0
	その他			31,496	29,588			30,437				38,115
	一般財源			74,745	73,173			70,883				73,225
主な経費(単位:千円) ※H30→決算,H31→予算								指定管理料:77,137千円				指定管理料:77,177千円
特記事項(単位:千円) ※繰越,補正,流用,事業統合等								流用による増あり				
予算執行残額(単位:千円)			(A)-(B)	-143	3,436			2,723				
人役(単位:人) ※小数点第一位まで	正規職員			3.4	3.4			3.4				3.4
	正規職員以外			1.2	1.2			1.2				1.2

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	指定管理者によるミュージアムの施設維持管理 ・市民や子どもを対象とした講座等の実施 ・観光部門や他博物館等と連携したPR活動や旅行商品の販売 ・明治150年、秋山真之生誕150年記念事業の実施		H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	明治150年、秋山真之生誕150年記念事業の終了。平成31年度に市制施行130周年と秋山好古生誕160年を迎えるため、記念の特別展示やイベントなどを開催し誘客を図る必要がある。		
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点,悪かった点など	明治150年、秋山真之生誕150年を記念した展示やイベントを数多く実施し、『坂の上の雲』のまち松山の魅力を市内外の多くの方に発信できた。一方、豪雨災害の影響により年間の入館者数は昨年度より若干減少した。		
中核市の実施状況	1:オンリーワン	事業の独自性	小説を活かした“松山ならではの”まちづくり			
類似事業の有無(国,県,民間等)	2:無し	「有り」の場合,事業名・実施主体等				
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	2	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	行政専門性	2	1:専門知識を要する(行政専門型) 2:専門知識をあまり要しない(一般専門型)
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	ミュージアムがまちづくりの中核施設としてだけでなく、観光面でも松山の魅力の一つとして定着してきているため。			
H31年度の目標	展示事業と合わせ、各種活性化事業を行い、ミュージアムの魅力をさらに高め、周知することにより多くの方に来館していただく。		H31年度の主な取り組み内容(予定含む)	指定管理者によるミュージアムの施設維持管理 ・市民や子どもを対象とした講座等の実施 ・観光部門や他博物館等と連携したPR活動や旅行商品の販売	特に環境変化,障害,課題等解決のため,H31年度で取り組み改善策	市制施行130周年、秋山好古生誕160年を記念した特別展示やイベントを、指定管理者や関係各所と協力して計画的に開催する。

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	メディア等へのPR(広告)回数	回	目標値	320	340	350	360	360	目標値	360	
			実績値	317	315	342			達成年度	R2年度	
		%	達成度	99.1%	92.6%	97.7%					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	過去の最高値を参考に目標を定めた			
	本指標の設定理由	来館者増を目指す上で、重視する活動であるため									
	2階ホール等を活用したイベント・展示等開催数	回	目標値	150	150	150	150	150	目標値	150	
			実績値	158	133	131			達成年度	R2年度	
		%	達成度	105.3%	88.7%	87.3%					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	過去の最高値を参考に目標を定めた			
	本指標の設定理由	市民利用を促す指標として相応しいため									
			目標値						目標値		
			実績値						達成年度		
		%	達成度								
指標の種類						最終目標値の設定の考え方					
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	入館者数	人	目標値	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	目標値	130,000	
			実績値	123,240	115,672	113,386			達成年度	R2年度	
		%	達成度	94.8%	89.0%	87.2%					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)					最終目標値の設定の考え方	日本の同種、同規模の文学館の入館者数のデータと比較すると、目標とすべき妥当な数字である			
	本指標の設定理由	入館者数の増減が、最も分かりやすい指標であるため									
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
			%	達成度							
	指標の種類						最終目標値の設定の考え方				
	本指標の設定理由										
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	様々なイベント・展示等開催しメディア等でもPRを行っているが、今後も2階ホールを活用した様々なイベント等を開催し、市民利用の増加を図る必要がある。									
	成果指標	松山を訪れている観光客を充分に取り込んでいないため、観光と文化両面にて松山市の魅力を高める施設となるよう、PR等さらに努力していく必要がある。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											

平成31年度 松山市 事務事業シート <シートB>

評価実施年度	平成31年度	評価対象年度	平成30年度
--------	--------	--------	--------

※シート内で改元日以降の日付を旧元号(平成)で記載している場合は、新元号に読み替えてください。(例:平成31年5月1日→新元号元年5月1日)

H31年度	部局等名 総合政策部(坂の雲まちなびの担当)	課等名 坂の雲ミュージアム事務所	担当グループ名 坂の雲ミュージアム担当	連絡先 915-2601
	部等長名 片本 悦央	課等長名 石丸 耕一	リーダー名 主幹 池内 伸二	担当者名 主査 上田 一樹 主任 川島 佳弘
H30年度	部局等名 総合政策部(坂の雲まちなびの担当)	課等名 坂の雲ミュージアム事務所	担当グループ名 坂の雲ミュージアム担当	連絡先 915-2601
	部等長名 片本 悦央	課等長名 石丸 耕一	リーダー名 主幹 池内 伸二	担当者名 副主幹 則内 関博

1. 事業概要【Plan】 ※平成30年度の内容

事務事業名(施策コード)	32112	坂の雲ミュージアム企画展示事業	事業登録	既存	事業性質	1-1:自治事務(実施規定なし)	事業区分	3:指定管理				
基本目標	地域の魅力・活力がふれるまち【産業・交流】		221	個別プログラム	笑顔を育むプログラム							
政策	都市全体の価値や魅力を向上する				531	重点プロジェクト わがまち松山への愛着と誇りの醸成による「住み続けたいまちづくり」プロジェクト						
施策	選ばれる都市づくり					主要取り組み 地域資源の利活用と知る機会の充実						
主な取り組み	まちの特性を生かした魅力づくり		自分たちのまちに愛着や誇りをもち、住み続けたい松山をつくります									
取り組みの柱	坂の雲ミュージアムの活用		市長公約 風早・忽那諸島をはじめ、各地域の歴史や文化、自然などを活かし、松山のさまざまな魅力を磨きます。さらに、地域の魅力を知る機会を充実させることで、子どもや若者のシビックプライドを醸成します。									
総合戦略	基本目標			取組み			(総合戦略) 未来プロジェクト 該当有無	-				
	政策											
	施策											
総合計画の実施計画掲載有無(H30)	1:有り		重点的取組事業該当有無(H30)	1:有り		(重点該当の場合)	開始年度	平成 18	終了(予定)年度	平成 31		
根拠法令,条例,個別計画等	なし											
事業の目的(どのような状態にするか)	毎年、多角的な視点から『坂の雲』の時代と世界に関する企画展を開催し市内外へ広く発信することで、市民に『坂の雲』のまち松山への愛着と誇りを感じてもらい、市外の方々に「行ってみたい」「住んでみたい」と思ってもらうことを目的とする。											
背景(どのような経緯で開始したか)	開館前の平成16年度(第1回会合 H16.2.27)から平成17年度の2年間(計5回開催)にわたり開催した「坂の雲 記念館展示専門委員会」からの答申を最大限に尊重し、毎年テーマを変える企画展を実施する。											
対象(誰を,何を)	松山市民、観光客を対象とした企画展示											
事業内容(どのような活動・手段か)	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂の雲ミュージアム企画展示の企画、調査、展示設計、展示制作を行う。(2月頃展示入れ替え)</li> <li>企画展示に関連したイベント等を行う。</li> <li>企画展示の図録を製作する。</li> <li>音声ガイドに関する業務を行う。(内容更新、機器の賃借)</li> <li>その他大規模に行う展示にかかわる業務を行う。</li> </ul>											
市民や民間等との協働の状況	協働の有無	1:有り		有りの場合、その協働の内容	ワークシート等の作成において、市内のデザイン専門学校の協力を得る。							
事業の周知状況	HP掲載の有無	1:有り		(有りの場合) URL	http://www.sakanouenokumomuseum.jp/		パンフレット等の有無	1:有り		(有りの場合) 設置場所	ミュージアム内、空港、港湾、市内外の文化・観光施設等	
受益者負担の状況	負担の有無	1:有り		「有り」の場合、基準や金額等「無し」の場合、その理由	観覧料 一般400円(320円)、高校生200円(100円)、高齢者200円(160円) 中学生以下無料 ( )内は20名以上の団体割引料金 音声ガイド 100円、イベント等は、その都度金額を設定。							
始期・終期(年度)	平成 18	～		終期設定できない場合の理由	ミュージアムを継続的に運営していくため。							

2. 事業実施に係る資源の投入量【Do】

予算科目	会計	一般会計	款	商工費		観光費		観光資源開発費		H30予算措置時期	当初
				H28年度	H29年度	H30年度	H31年度				
現計予算額(A)(単位:千円)				29,236	35,947	26,850		25,423			
決算額(B)(単位:千円)				22,773	29,498	24,657		23,623			
内訳(単位:千円) ※H28~30→決算内訳、 H31→予算内訳	国支出金			0	0	0		0			
	県支出金			0	3,000	0		0			
	市債			0	0	0		0			
	その他			0	1,398	1,437		1,800			
一般財源			22,773	25,100	23,220		23,623				
主な経費(単位:千円) ※H30→決算、H31→予算				展示の設計、制作、資料輸送等にかかる経費18,786千円、資料調査等旅費:537千円		展示の設計、制作、資料輸送等にかかる経費19,836千円、資料調査等旅費:749千円					
特記事項(単位:千円) ※繰越、補正、流用、事業統合等				流用による増あり							
予算執行残額(単位:千円)				(A)-(B)	6,463	6,449	2,193				
人役(単位:人) ※小数点第一位まで				正規職員	2.6	2.6	2.6		2.6		
				正規職員以外	0.8	0.8	0.8		0.8		

※決算額(内訳含む。)は四捨五入のため、実際の額とは異なる場合あり。

3. 前年度(H30年度)の事業検証・改善【Check・Action】

主な取り組み内容	第13回企画展の企画・展示設計と展示制作		H30年度終了までに把握している環境の変化、障害、課題となっている事項	新たな企画展の実施に向けて、専門性だけでなく来館のための興味・関心をひくさらなる工夫が必要。		
主な取り組み内容の達成度	→	↑:年度当初目標以上 →:年度当初目標どおり ↓:年度当初目標以下	左記の理由として良かった点、悪かった点など	第13回企画展では、『坂の雲』に描かれた正岡子規の俳句をテーマにした展示を行い、展示室に子規の病室をイメージした空間をつくり、初公開となる子規関係資料を展示することができた。		
中核市の実施状況	1:オンリーワン	事業の独自性	小説を活かした“松山ならではの”まちづくり			
類似事業の有無(国,県,民間等)	2:無し	「有り」の場合,事業名・実施主体等				
事業の公共性	必要性	2	1:日常生活に不可欠(必需) 2:日常生活に不可欠ではない(選択) 3:どちらにも該当しない	実施主体の妥当性	政策性 1	1:政策的意思決定を要する(政策的) 2:経常業務の度合いが高い(経常的)
	公益性	1	1:より多くの市民に提供(共同型) 2:特定の個人・団体等に提供(個人型) 3:どちらにも該当しない	行政専門性	1	1:専門知識を要する(行政専門型) 2:専門知識をあまり要しない(一般専門型)
施策への貢献度(目的の達成度を含む)	1:貢献している	左記の理由	小説『坂の雲』をきっかけとして、ミュージアムが新たな松山の魅力となっている。			
H31年度の目標	より多くの観光客と松山市民に、小説『坂の雲』が発するメッセージを感じてもらえるよう努める。		H31年度の主な取り組み内容(予定含む)	第14回企画展の企画・設計・展示制作。	特に環境変化、障害、課題等解決のため、H31年度で取り組む改善策	より多くの人に『坂の雲』に描かれた世界や明治という時代に興味をもってもらえるような展示内容を心がける。

【活動指標】とは…事業の具体的な活動量(アウトプット/「市」が何をしたか)

【成果指標】とは…事業実施により得られる成果(アウトカム/活動の結果、「市民等」がどうなったか)

<業績の分析>

目標達成度	指標名	単位	区分	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	最終目標		
活動指標 (3つまで設定可)	メディア等へのPR(広告)回数	回	目標値	320	340	350	360	360	目標値	360	
			実績値	317	315	342			達成年度	R2年度	
			% 達成度	99.1%	92.6%	97.7%					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)						過去の最高値を参考に目標を定めた			
	本指標の設定理由	来館者増を目指す上で、重視する活動であるため						最終目標値の設定の考え方			
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類							最終目標値の設定の考え方			
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類							最終目標値の設定の考え方				
本指標の設定理由											
成果指標 (3つまで設定可)	入館者数	人	目標値	130,000	130,000	130,000	130,000	130,000	目標値	130,000	
			実績値	123,240	115,672	113,386			達成年度	R2年度	
			% 達成度	94.8%	89.0%	87.2%					
	指標の種類	5:現状維持を目指す指標(増を良しとする)						日本の同種、同規模の文学館の入館者数のデータと比較すると、目標とすべき妥当な数字である			
	本指標の設定理由	入館者数の増減が、最も分かりやすい指標であるため						最終目標値の設定の考え方			
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
				% 達成度							
	指標の種類							最終目標値の設定の考え方			
	本指標の設定理由										
				目標値						目標値	
				実績値						達成年度	
% 達成度											
指標の種類							最終目標値の設定の考え方				
本指標の設定理由											
上記指標の実績に対する評価(達成又は未達成要因の分析)	活動指標	メディア等で多くのPRを行っているが、今後も様々なメディアを活用したPRを行い、来館者の増加に繋げる必要がある。									
	成果指標	松山を訪れている観光客を充分に取り込んでいないため、観光と文化両面にて松山市の魅力を高める施設となるよう、PR等さらに努力していく必要がある。									
上記の指標以外に、指標では表すことができない定性的な成果がある場合、その内容											